

# 令和7年度 学校経営計画（目標と方策）

八王子市立高嶺小学校  
校長 松久保 雅和

学校教育目標 た たすけ合う、思いやりのある子 ◎か 考えを深め、自分から学ぶ子 ね ねばり強く、最後までやりぬく子 ◎は今年度重点目標 ～子どもファーストで判断し、教員一人一人が生き生きと楽しく教育活動を行うことにより、児童が安心して主体的に学ぶ学校～				
基本方針	中期目標	今年度の重点目標	具体的な方策	成果の検証
安心して生活でき、一人一人の居場所がある学校	生活指導を充実させる。 人権教育を充実させる。 教育相談を充実させる。 食育を推進する。	いじめを許さない学級経営を行う。 規範意識を高める。傍観者の態度を取らせない。 自分の人権も他者の人権も守れる児童を育てる。 自他を大切に育てる児童を育てる。 児童の心に寄り添う。児童の声を聴く。児童が教員から見守られていると実感できるようにする。 望ましい食習慣を身に付ける態度を養う。	トラブルはその日のうちに解決し、関係保護者と共有する。 毎週全教職員でいじめ対策委員会を行い、早期発見早期解決に努める。 「みんながってみんないい」「言葉遣いは心遣い」を合言葉に人権教育をすべての教育活動を通して実践し、人権意識を高める。 SC、SSW、巡回相談を積極的に活用し、児童と教師との対話を通して信頼関係を高める。 給食主任、栄養士と連携し、給食や委員会等で食育に取り組む。	保護者アンケート 児童アンケート 聞き取り  保護者アンケート 児童アンケート 学校評価
学ぶ喜び、できる喜びが実感できる学校	「できた」「わかった」の積み重ねによる児童の自信と学習満足度を向上させる。  基礎的な知識・技能を定着させる。  学力向上委員会の充実を図る。	課題解決型授業を徹底する。ねらいを明確にし、魅力ある課題提示に努める。思考の時間を設定し児童の主体性を育てる。  学習規律を確立させる。 一人一人のつまずきを発見し、克服させる。 学力向上委員会にて学力向上に向けた全校的な取り組みを推進する。	週の指導計画作成の際、めあて、導入、思考場面を明らかにさせる。 <b>校内研究を中心に学びに向かう力を高める指導法を探索し実践する。</b> ICT機器を活用して個別最適な学び、協働的な学びを効果的に進める。 「はい、立つ、です」などの授業規律を校内で統一する。 習熟度別授業、放課後補充教室でミライシードを積極的に活用する。 少人数算数担当を中心に放課後の補習、家庭との連携を通した繰り返しの学習を計画的に実施し、学習内容を定着させる。	児童アンケート 授業観察 自己評価・授業観察 授業観察 各種学力調査 各種学力調査
家庭・地域社会との協働による開かれた学校	開かれた学校から開かれた教育課程を目指す。	児童・職員・地域との交流を推進する。 保護者、地域と協働し学校の環境整備を行い、安全できれいな学校を目指す。各種ボランティアとの連携を図る。	学校運営協議会を中心に教育活動へのボランティア派遣の体制をつくり上げる。校舎周辺の清掃、校舎裏及び外周の草刈りを協力して行う。 HPやメール配信等で保護者・地域に対しての情報発信を充実させる。 <b>防災訓練を地域と同日・同場所で開催し、連帯感を高める。</b>	学校評価 保護者アンケート
特別支援体制の充実	環境、指導のUD化を進め、インクルーシブの実現を目指す。	児童一人一人の状況を把握し、校内委員会を充実させ、関係者会議を開催する。	校内委員会を月1～2回開催する。特別支援教育コーディネータを中心に担任と特別支援教室が連携した校内支援体制を構築する。 学校サポーターの有効な活用を図る。	学校評価 保護者アンケート
自主、自立の精神に満ちた児童の育成	学級の中で児童一人一人が役割をもち、自尊感情が高まるようにする。  特別活動を充実させ、児童一人一人が主体的に判断し、活動できるようにする。 異学年交流を推進する。	学習面、生活面で一人一人の児童に理解・納得の下で活動させる。目標をもたせ、達成に向け励まし、よさを認め、自己肯定感を高める。 学級活動、児童会活動、学校行事などを通し、人に役立つ喜びを味わわせ、自己有用感を高める。 宿泊体験活動の充実を図る。 異学年交流を行い、学年の違う児童同士が助け合い、協力し合い相手を思いやる心を育てる。	授業時間のみならず、休み時間、給食の時間、清掃の時間、放課後などに児童と触れ合う時間を大事にし、子供のありのままの姿を認める。子供の小さな変化に気付き、向上心のもてる指導をしていく。 学級での係活動や委員会活動などで児童の行動を具体的に励まし、がんばりを評価していく。活動の中での経験を通し判断基準を教えていく。 宿泊を伴う活動を通し、児童相互・児童と教員の信頼関係をより深める。 くすの木遊び、くすの木まつり、くすの木交流給食を児童主体で計画、実施する。	児童アンケート  学校評価 保護者アンケート 学校評価 保護者アンケート 児童アンケート
働き方改革の推進	校務DXを積極的にすすめる。	ICTを積極的に活用し、担任業務や校務分掌業務を効果的かつ軽減につなげる。	<b>OFF-JTを推奨し、他校や文科省リーディングDXの情報を本校の実態に合った形で取り入れていく。</b> 業者のシステムを積極的に活用し、校務の軽減を図る。	学校評価